

## 目 次

### I. 総会、理事会、政策委員会、部会関係

- 1) 平成21年度定時総会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2) 平成21年度事業計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 3) 理事会審議議題・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 4) 政策委員会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 5) 宣伝部会、営業部会、製作＝渉外部会  
    総務・経理合同部会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

### II. 主な事業活動の報告

- 1) 外国映画事業、映画関係法規等の調査、  
    研究並びに資料の収集および作成・・・・・・・・・・ 10
- 2) 優秀な外国映画の保存及び公開  
    東京国立近代美術館フィルムセンターへのフィルム寄贈・・ 10  
    「トーキョーシネマショー」の開催・・・・・・・・・・ 10  
    第48回「優秀外国映画輸入配給賞」の実施・・・・・・・・ 12
- 3) 国際協力に資する各種映画祭の開催協力・・・・・・・・ 18
- 4) 輸入外国映画の品質、興行成績及び事故による損傷、  
    滅失等の評価、鑑定又は証明・・・・・・・・・・ 19
- 5) 輸入外国映画の国際取引に係る紛争解決の斡旋・・・・・・・・ 19
- 6) 前各号に掲げるもののほか、  
    本会の目的を達成するために必要な事業・・・・・・・・ 20

#### 別添各種資料

- 外画概況 国別・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
- 外画概況 会社別・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
- 作品目録・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

## 社団法人外国映画輸入配給協会事業報告

### I. 総会、理事会、政策委員会、部会関係

#### 1) 平成21年度定時総会

平成21年度定時総会が以下の通りおこなわれた。

開催日時： 平成21年6月12日 午後1時

開催場所： 東京建設会館 4階会議室

平成20年度事業報告、決算報告ならびに平成21年度事業計画、収支予算は承認可決された。

理事の任期満了に伴い、理事迫本淳一、理事豊島雅郎、理事林瑞峰、理事杉山章、理事春名慶、理事角川歴彦、理事大藏満彦、理事廣瀬敏雄、理事長瀬文男、理事升本喜郎の10氏の選任が承認可決された。

監事の任期満了に伴い、監事中雅俊、監事岩崎敏久の2名の選任が承認可決された。

#### 2) 平成21年度事業計画

平成21年度事業計画は以下の通り

社団法人外国映画輸入配給協会が、平成21年4月1日より同22年3月31日迄の間に行う予定の主要事業は下記の通りで、社団法人映画産業団体連合会傘下の我が国唯一の邦人系外国映画輸入配給業者の団体として、運営の基盤を一層着実に安定させると共に、社団法人日本映画製作者連盟、全国興行生活衛生同業組合連合会、モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)、社団法人日本映像ソフト協会、日本国際映画著作権協会、外国映画通関連絡協議会等関連諸組織との提携を一層密接にし、洋画界を代表する唯一の公的機関としての権威付と内的充実を計るよう努力する。

#### 1. 外国映画事業、映画関係法規等の調査、研究並びに資料の収集および作成 (定款第4条(1))

##### ①

毎年3月に「外国映画作品目録」(前年4月から3月までに日本で配給された外国映画作品目録)、同じく7月、1月の2回「外画概況」(国別、会社別)

を各々作成発行する他、必要に応じて随時資料等を発行し、日本に於ける外国映画の輸入、配給、興行に関する基礎的資料の整備に努力する。

同資料はホームページにて公開。

昨年と同様にホームページ英語版の充実をはかり、海外からの要請に対応する。

## 2. 優秀な外国映画の保存及び公開（定款第4条（2））

### ①

会員各社が権利を有する各配給作品の期限切れの際に作品のプロデューサーから許可を得て、研究用資料として当該作品のプリントおよび写真など資料を東京国立近代美術館フィルムセンターに永久貸与する活動を広げていく。

### ②

「トーキョーシネマショー」の開催

昨年は8月28日から8月30日に“GTFトーキョーシネマショー2008”を行ったが、本年度も“トーキョーシネマショー2009”を開催する。本年度は、各社の秋以降の作品のラインナッププレゼンテーションを中心とした内容とし、社団法人日本映画製作者連盟（映連）、全国興行生活衛生同業組合連合会（全興連）、モーション・ピクチャー・アソシエーション（MPA）、との共催企画として、東商ホールで1日開催を予定している。

本催しは、アメリカ映画興行界が毎年3月に世界の映画・興行関係の参加者を対象に開催している「SHOWEST」を参考に始めたもので、経済産業省、財団法人日本映像国際振興協会や特定非営利活動法人映像産業振興機構の後援を得て行っている。本年度もまた第22回東京国際映画祭の提携企画のひとつとして当協会会員及びMPA加盟洋画配給各社と映連会員各社が平成21年秋から平成22年夏に公開を予定している作品（邦・洋画）について、宣伝担当による紹介、特報・予告篇の上映、チラシ、各社ラインアップを網羅した作品紹介パンフレットの配布等を行う他、シンポジウムなども企画されている。

また昨年7月から今年6月までに上映された邦画、洋画作品で最もすばらしいタイトルをつけた作品を表彰する「筑紫賞：ゴールデンタイトル・アワード」授賞式をトーキョーシネマショーのイベントの中で行う予定である。

さらに来年2010年に第15回をむかえる「トーキョーシネマショー」に向けて「15周年記念特別イベント」の準備を開始する。

### ③

第48回「優秀外国映画輸入配給賞」の実施

本協会最大の年中行事として昭和37年度より実施しているが、第48回も、平成21年4月1日より平成22年3月31日迄の1カ年間に、作品的に優秀で、なおかつ新分野を開拓し、日本映画界の発展に大きく寄与すると認められた外国映画を我が国に輸入公開した配給会社を審査員12名が選考のうえ表

彰する。当該会社に経済産業大臣から賞状および記念品を授与して頂く。授賞式は平成22年4月14日（水）を予定し、授賞式後に経済産業大臣賞受賞会社提供作品の試写会を開催、応募者600名を無料にて招待予定。

3. 国際協力に資する各種映画祭の開催及び協力（定款第4条（3））

日本映画の輸出を円滑に行い、海外との良好な関係を築き国際協力に資する為、第22回「東京国際映画祭」、「フランス映画祭」をはじめとする我が国で開催される映画祭を後援、運営等の協力をするとともに「日本アカデミー賞」「ブルーリボン賞」など各種映画祭にも積極的に後援、運営協力をしていく。

4. 輸入外国映画の品質、興行成績及び事故による損傷、滅失等の評価、鑑定又は証明（定款第4条（4））

「映画サービスデー」実施を始めとする全興連事業への協力

12月1日「映画の日」ならびに東京都興行生活衛生同業組合（都興連）が主催する毎月1回、年12回（「映画の日」を含める）実施される「映画サービスデー」に協力するとともに、都興連が作成する同日の興行成績対比などの資料を活用し、観客動員の増加に努めると同時に輸入外国映画の品質、興行成績、興行における事故等の最新の情報収集に努める。

当協会会員あるいは、関係諸団体より、上に掲げる評価、鑑定、証明の要請がある場合には、適宜対応する。

5. 輸入外国映画の国際取引に係る紛争解決の斡旋（定款第4条（5））

①

当協会会員各社は作品契約に際して諸般の事情の許す限り情報交換を行い、日本における輸入配給事業の健全な発展を計るよう努力する。

②

映像産業の多様化とIT化に伴う、劇場用長編外国映画の著作権侵害に対する諸対策の件

日本の映画館内で上映中の邦画・洋画が盗撮され、その作品がウィニーあるいはP2P他のソフト使用によりオンライン上で無料交換され、あるいはDVDに製作のうえ繁華街等の路上で販売されている状況が深刻になってきた状況をうけ、外配協では知的財産保護委員会が中心となり、(社)日本映画製作者連盟（映連）、モーション・ピクチャー・アソシエーション（MPA）、全国興行生活衛生同業組合連合会（全興連）、(社)日本映像ソフト協会、日本国際映画著作権協会（JIMCA）等関係各方面と密接な連絡をとって映画盗撮防止、海賊版摘発、著作権確立をはじめとする各種の対策を協議、研究し、国際間の問題に対処できる基盤の整備に努めてきたが、引き続き本件への取組みを強化

し日本の映画興行市場が海賊版流出により、海外映画製作者・配給者から、その健全性に疑念を抱かれないよう、盗撮防止と海賊版防止に努める。

平成19年8月30日に施行のはこびとなった「映画の盗撮の防止に関する法律」を守り、一般の理解を得る目的で「映画館に行こう！」実行委員会を核とし、JIMCA、映連、日本映像ソフト協会、全興連と協力して盗撮を防止するための措置を講ずるよう一層努める。

「知的財産保護」活動を継続して円滑に展開する為、本年度も資金の充実を計る。

6. 前各号に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業  
(定款第4条(6))

①

「映画館に行こう！」キャンペーン事業への参加

映画人口の拡大を実現し、映画産業と日本経済の発展に資する事を目的に、(社)日本映画製作者連盟、全国興行生活衛生同業組合連合会、モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)の映画業界3団体と協力して、「映画館に行こう！」キャンペーンの成功ならびに実行委員会の課題にむけて、協会及び各会員会社が積極的に参加し、その実績を検証する。

②

副音声付等特殊上映事業

「さまざまな人に映画を届ける」を目標に、視覚・聴覚に障害のある方々、あるいは、高齢者に配慮した環境の中で映画作品を上映する機会を設ける活動を続け、その為の資金の充実を計る。

③

年頭名刺交換会の開催

モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)の協力を得て、日本の映画産業を支える配給、興行、製作関係者等800名余に参加いただき、年頭にあたり外国映画輸入配給事業の健全な発達を図り我が国経済の発展と文化の向上に寄与することを目的として平成21年も1月5日(月)に「年頭名刺交換会」を開催したが、平成22年も1月5日(火)に行うことを決定している。

④

50周年記念事業の企画

昭和37年(1962)に社団法人として正式に発足した当協会は平成24年2012年に協会創立50周年をむかえる。このため創立50周年記念事業企画委員会を立ち上げ、記念事業企画の検討を始める。

⑤

その他

会員各社および映画界全体の目的を達成する為に必要な事業に関し、各部会、各種専門委員に於いて積極的な研究を行う。

3) 理事会審議議題

○4月定例理事会 (4月17日開催)

3月定例理事会議事録承認の件

3月の事業報告承認の件

平成20年度決算の件

平成21年度予算設定の件

平成21年度トーキョーシネマショーの件

<配布資料>

東京都「映画サービスデー」主要館興行成績対比資料 (4月1日実施)

Blu-rayDisc 並行輸入に関して

○6月定例理事会 (6月12日開催)

4月定例理事会議事録承認の件

4月、5月事業報告書承認の件

「映画館へ行こう！」の件

第48回「優秀外国映画輸入配給賞」の件

TIFFCOM2009後援名義の件

あいち国際女性映画祭2009後援名義の件

山形国際ドキュメンタリー映画祭後援名義の件

<配布資料>

東京都「映画サービスデー」主要館興行成績対比資料 (5月1日実施)

東京都「映画サービスデー」主要館興行成績対比資料 (6月1日実施)

○7月定例理事会 (7月17日開催)

第一部

6月定例理事会議事録承認の件

6月事業報告書承認の件

GTFトーキョーシネマショー2009の件

ブラジル映画祭2009協賛依頼の件

東京国際映画祭概要の件

## 第二部 セミナー

「拡大するデジタルシネマ上映の主要課題」

<配布資料>

東京都「映画サービスデー」主要館興行成績対比資料（7月1日実施）

## ○9月定例理事会（9月18日開催）

### 第一部

7月定例理事会議事録承認の件

7月、8月事業報告書承認の件

GTFトーキョーシネマショー2009終了の件

「映画盗撮防止」について

第14回神戸100年映画祭後援名義の件

午前十時の映画祭後援名義の件

第16回大阪ヨーロッパ映画祭後援名義の件

### 第二部 セミナー

「実例から見るデジタルシネマの現状と問題点」

「デジタルシネマにおけるネットワークの活用法」

<配布資料>

東京都「映画サービスデー」主要館興行成績対比資料（8月1日実施）

東京都「映画サービスデー」主要館興行成績対比資料（9月1日実施）

新型インフルエンザ対処方針（経済産業省）

第22回東京国際映画祭記者会見資料

## ○10月定例理事会（10月16日開催）

### 第一部

9月定例理事会議事録承認の件

9月事業報告書承認の件

「映画盗撮防止」について

(株)CCC社名変更の件

第16回大阪ヨーロッパ映画祭名誉委員就任の件

第33回日本アカデミー賞の件

新型インフルエンザへの対応について

### 第二部 セミナー

「国内におけるデジタルシネマの現状と今後の展望」

<配布資料>

東京都「映画サービスデー」主要館興行成績対比資料（10月1日実施）

○11月定例理事会（11月20日開催）

10月定例理事会議事録承認の件

10月事業報告書承認の件

年頭名刺交換会の件

第54回「映画の日」特別功労大賞／功労賞／感謝状の件

年末年始スケジュールの件

大阪アジア映画祭2010後援名義の件

<配布資料>

東京都「映画サービスデー」主要館興行成績対比資料（11月1日実施）

○1月定例理事会（1月15日開催）

11月定例理事会議事録承認の件

11月，12月事業報告書承認の件

年頭名刺交換会の件

「映画館に行こう」実行委員会の件

第2回沖縄国際映画祭後援名義の件

平成21年外画状況の件

<配布資料>

東京都「映画サービスデー」主要館興行成績対比資料（12月1日実施）

東京都「映画サービスデー」主要館興行成績対比資料（1月1日実施）

第33回優秀賞・新人俳優賞受賞者一覧（日本アカデミー賞協会）

第64回眞日映画コンクール選考結果一覧

○2月定例理事会（2月19日開催）

1月定例理事会議事録承認の件

1月事業報告書承認の件

年頭名刺交換会の件

第48回優秀外国映画輸入配給賞の件

「映画盗撮防止」の件

第1回シアタースタッフ映画祭後援名義の件

フランス映画祭2010後援名義の件

「午前10時の映画祭」状況報告の件

第2回映団連セミナーの件

<配布資料>

東京都「映画サービスデー」主要館興行成績対比資料（2月1日実施）

2009年全国映画概況／映画輸出実績（映連）

映像コンテンツに係るP2P侵害との関係<現状報告>（JVA）



○3月定例理事会（3月19日開催）

2月定例理事会議事録承認の件

2月事業報告書承認の件

平成21年度仮決算の件

平成22年度事業計画案の件

平成22年度仮予算設定の件

第48回優秀外国映画輸入配給賞の件

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2010後援名義の件

日本シアタースタッフ映画祭の件

<配布資料>

東京都「映画サービスデー」主要館興行成績対比資料（3月1日実施）

4) 政策委員会の開催

平成21年度に「政策委員会」は第127回から第135回までの9回開催され定款第20条第3項に従い、理事会の委任を受けて平成21年度の事業計画を実現し、協会運営を強力に推進するための審議・検討を行った。

5) 宣伝部会、営業部会、製作＝渉外部会、総務・経理合同部会の開催

理事会の承認のもとに以下の部会に於いて、事業計画推進・協会運営のための一般会議が行われた。

○宣伝部会

4回（9月30日、11月25日、1月27日、3月24日）

○営業部会

4回（9月30日、11月30日、1月26日、3月25日）

（6月25日臨時部会、12月8日懇親会）

○製作＝渉外部会

4回（9月28日、11月6日、1月29日、3月5日）

○総務・経理合同部会

3回（9月29日、11月27日、3月30日）

（1月18日新年懇親会）

## II. 主な事業活動の報告

1) 外国映画事業、映画関係法規等の調査、研究並びに資料の収集および作成  
平成21年度外国映画作品目録を平成22年1月に発行。続いて2月と3月に補足資料を発行して本資料を完成。平成21年度外画概況一国別、会社別一を7月と1月に発行。作品目録ならびに外画概況は別添。  
なお、各種資料は完成後すぐに当協会ホームページに掲載し、関連団体、官公庁、関係会社、マスコミとの連絡業務に使用されている。

### 2) 優秀な外国映画の保存及び公開

#### 1. 東京国立近代美術館フィルムセンターへのフィルム寄贈

当協会会員会社から東京国立近代美術館フィルムセンターに永久貸与された作品は2本であった。会員各社の作品契約の諸条件の中で、海外契約相手のプロデューサーからの賛同を得て、日本（東京国立近代美術館フィルムセンター）にプリントを残す運動は、地道な活動ではあるが、重要な仕事であると認識して、各社が努力している。

#### 2. 「トーキョーシネマショー」の開催

14回目を迎えた「トーキョーシネマショー」は「GTFトーキョーシネマショー2009」として以下の通り開催された。

会場：東商ホール

会期：8月6日（木）～8月7日（金）

主催：社団法人外国映画輸入配給協会

共催：モーション・ピクチャー・アソシエーション（MPA）

社団法人日本映画製作者連盟

全国興行生活衛生同業組合連合会

GTFグレートウキョウフェスティバル実行委員会

後援：経済産業省

財団法人日本映像国際振興協会

特定非営利活動法人映像産業振興機構

#### プログラム

○第5回「筑紫賞：ゴールデンタイトル・アワード」授賞式

—映画をより多くの人に、日本語をより豊かに—

その年の優れた日本語映画題名を顕彰するこの賞は、ジャーナリスト故筑紫哲也氏の提唱により2005年に創設されたもの。「映画館に行こう！」実行委

員会では、本年度においてもこの賞を継続し選出、授賞式を行った。

2009年からは、審査を筑紫ゆうな氏、天野祐吉氏、藤原帰一氏に依頼して2008年7月～2009年6月までの公開作品を対象として審査、選出した。

日 時 : 8月6日(木) 13時30分～14時00分

受賞作品 : 「扉をたたく人」

配 給 : ロングライド

選 評 : 筑紫ゆうな

天野祐吉さんと藤原帰一さんのご協力を頂き、今回から私、筑紫ゆうなと三名で選考委員を務めさせて頂くことになりました。

考えを寄せ合う事により見方が多角的になる分、どの作品に行き着くのかという楽しみがありました。検討を重ねた末、最終的に「愛を読むひと(原題:The Reader)」と二択となり、三名一致で「扉をたたく人(原題:The Visitor)」に決定致しました。

タイトルでまず気になり劇場に見に出かけたところ、その内容が見終わった後に胸にじわじわと沁みってくる、とても余韻を残す作品でした。タイトルも同様、じわじわと意味を増すような表現で、絶妙な翻訳だと思います。

連れ添いを亡くしている大学教授の孤独な心を開く移民青年の母親、青年と大学教授が心を通わせるきっかけとなったたたく楽器ジャンベ、観客に後から後から読み込める広がりを持たせるタイトルだと思います。

藤原さんの映画リテラシーの深さと鋭い考察、天野さんの語感のセンス、父がそこにいましたら、さぞ楽しそうに論が弾んだことだろうと想いました。

#### ○ラインアップ・プレゼンテーション

日 時 : 8月6日(木) 14時00分～16時30分

ナビゲーター : 襟川クロ(映画パーソナリティ)

映画パーソナリティ襟川クロ氏の司会で、外配協、MPA、映連加盟配給各社25社の宣伝担当者が、2009年秋以降に公開予定の新作映画ラインアップのプレゼンを行い会場は盛り上がった。

昼食時には、ラインアップ・プレゼンテーションに出席の興行、配給他関係者との懇親会が行われた。

#### ○試写会

8月6日(木)～8月7日(金)

8月6日、7日で外配協・MPA・映連会員、加盟会社により上映された新作作品は4本であった。

試写会作品出品内訳

外配協	2社	2本
MPA	1社	1本
映連	1社 (外配協からエントリー)	1本
合計		4本

各試写会作品名と試写会ならびにスペシャルイベント・予告篇入場者数

日付	作品名	一般 応募者数	入場者数
8 / 6 (木)	筑紫イベント ラインアップ・プレゼンテーション	51	426
	HACHI 約束の犬	2304	520
8 / 7 (金)	ワイルド・スピード MAX	1951	364
	男と女の不都合な真実	2245	410
	私の中のあなた	2905	442
合計		<b>9,456</b>	<b>2,162</b>

「GTF トーキョーシネマショー 2009」パンフレットには、外配協、MPA、映連会員各社の2009年秋以降のラインアップ作品を可能なかぎり揃え、カラーで掲載し、資料としての価値を高めるよう配慮した。パンフレットは来場者に無料で配布され、秋以降に公開を待つ映画作品の紹介が、映画観客増加に繋がるよう努めた。

3. 第48回「優秀外国映画輸入配給賞」の実施

社団法人外国映画輸入配給協会が昭和37年度(1962年)から通商産業省(現経済産業省)の後援を得て制定した「優秀外国映画輸入配給賞」も平成21年度で48回を迎えた。第48回同賞は平成21年4月1日から平成22年3月31日迄の1年間に作品的に優秀で、なおかつ新分野を開拓し、日本映画界の発展に大きく寄与すると認められた外国映画を我が国に輸入公開した配給会社を表彰するため、12名(別項表示)の審査員により審査がおこなわれ、各賞が決定した。

概要は以下の通り

審査委員・運営委員合同会議は、6月3日(水)に開催され、第48回「優秀外国映画輸入配給賞」の実施要項が承認された後、第48回の審査員が紹介され、審査委員長に品田雄吉氏、副委員長に秋山登氏の就任が決定した。

審査員： 秋山 登、明智 恵子、宇井 寿之、内野 小百美、大高 宏雄、  
岡 政人、勝田 友巳、品田 雄吉、土屋 好生、藤井 真也、  
藤原 作弥、村山 恒夫 (五十音字)

主 催： 社団法人外国映画輸入配給協会

後 援： 経済産業省

## 審査報告書

### 第1回審査会

第1回審査会は2月3日(水)午後12時より、日本映画製作者連盟会議室にて審査員10名出席のうえ開かれた。品田審査委員長から、審査の基本方針について説明が行われ、外国映画輸入配給協会が作成した2009年度「外国映画作品目録」を資料に、審査対象会社94社(当協会会員会社18社、MPA加盟会社5社、その他71社)を一社ずつ配給した全作品を検討しつつ審議を行った結果、最終審査会には以下の16社が選ばれた。

#### ○株式会社エプコット アルシネテラン・ディヴィジョン

「人生に乾杯!」「湖のほとりで」「副王家の一族」「誰がため」

#### ○ギャガ株式会社

「スラムドッグ\$ミリオネア」「バーン・アフター・リーディング」「アイカムウィズザレイン」「私の中のあなた」「ファイナル・デッドサーキット3D」「スペル」「ヴィクトリア女王 世紀の愛」「ミレニウム ドラゴン・タトゥーの女」「オーシャンズ」

#### ○株式会社ショウゲート

「アンティーク 西洋骨董洋菓子店」「新宿インシデント」「サガン 悲しみよ こんにちは」「愛を読むひと」「セントアンナの奇跡」「グッド・バッド・ウィアード」「正義のゆくえ I.C.E. 特別捜査官」「キッチン 3人のレシピ」「パリ・オペラ座のすべて」「きみに微笑む雨」「キャピタリズム マネーは踊る」「Dr. パルナサスの鏡」

#### ○東宝東和株式会社

「レッドクリフ Part II 未来への最終決戦」「デュプリシテイ スパイは、スパイに嘘をつく」「消されたヘッドライン」「路上のソリスト」「ノウイング」「マーシャル博士の 恐竜ランド」「ワイルド・スピードMAX」「パイレーツ・ロック」「イングリシアス・バスターズ」「パブリック・エネミーズ」

○日活株式会社

「レスラー」「幸せはシャンソニア劇場から」

○ニューセレクト株式会社

「クララ・シューマン 愛の協奏曲」「カティンの森」

○ウォルト・ディズニー・スタジオ・ジャパン

「ビバリーヒルズ・チワワ」「ハンナ・モンタナ ザ・コンサート3D」「お買いもの中毒な私!」「ジョナス・ブラザーズ ザ・コンサート3D」「モーニング・ライト」「ウィッチマウンテン」「ボルト」「縞模様のパジャマの少年」「ディズニーネイチャー フラミンゴに隠された地球の秘密」「あなたは私の婿になる」「Disney's クリスマス・キャロル」「カールじいさんの空飛ぶ家」「ティンカー・ベルと月の石」「サロゲート」

○株式会社ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント

「ザ・バンク 墜ちた巨像」「ピンクパンサー2」「パニッシャー:ウォーゾーン」「レイチェルの結婚」「天使と悪魔」「ターミネーター4」「キャデラック・レコード 音楽でアメリカを変えた人々の物語」「宇宙へ」「サブウェイ123 激突」「アート オブ ウォー2」「男と女の不都合な真実」「くもりときどきミートボール」「アドレナリン:ハイ・ボルテージ」「斬撃」「マイケル・ジャクソン THIS IS IT」「2012」「ジュリー&ジュリア」

○20世紀フォックス映画

「マックス・ペイン」「バビロンA.D.」「アイスエイジ3 ティラノのおとしもの」「ナイトミュージアム2」「96時間」「ウルヴァリン X-MEN ZERO」「アバター」「(500)日のサマー」

○ワーナー・ブラザーズ映画

「グラン・トリノ」「セブンティーン・アゲイン」「チャンドニー・チョーク・トゥー・チャイナ」「ザ・スピリット」「ハリー・ポッターと謎のプリンス」「そんな彼なら捨てちゃえば?」「ココ・アヴァン・シャネル」「エスター」「きみがぼくを見つけた日」「ホワイトアウト」「ムーンウォーカー」「理想の彼氏」「インフォーマント!」「フォース・カインド」「かいじゅうたちのいるところ」「エクトプラズム 怨霊の棲む家」

○有限会社アップリンク

「風の馬」「雪の下の炎」「トーマスをすくえ!! ミステリーマウンテン」「NO NEW YORK 1984-91」「未来の食卓」「アンヴィル! 夢を諦めきれない男たち」「ブルー・ゴールド 狙われた水の真実」

○株式会社クレストインターナショナル

「夏時間の庭」「ポー川のひかり」

○株式会社ザジフィルムズ

「ベルサイユの子」「地下鉄のザジ」「アニエスの浜辺」「海角7号 君想う、国境の南」

○有限会社ビターズ・エンド

「四川のうた」「アバンチュールはパリで」「母なる証明」「倫敦から来た男」「ユキとニナ」

○株式会社ピックス

「ミルク」「ココ・シャネル」「リミッツ・オブ・コントロール」

○有限会社ロングライド

「扉をたたく人」「ずっとあなたを愛してる」

第2回審査会（最終審査会）

第2回審査会は3月3日（水）午後12時より、日本映画製作者連盟会議室において開かれた。第1回審査会（2月3日）以降に公開された作品リストも参考に、第1回で選ばれた16社の各配給会社作品の興行成績などを検討資料として審査が行われた。品田雄吉審査委員長の他11名の審査員による各賞の推薦理由およびそれに対する徹底討議ののち、以下の審査結果に決定した。

<経済産業大臣賞>

○ウォルト・ディズニー・スタジオ・ジャパン

「ボルト」「Disney's クリスマス・キャロル」「カールじいさんの空飛ぶ家」「プリンセスと魔法のキス」

平成21年度においては、ディズニーが圧倒的多数で経済産業大臣賞に推薦された。公開作品の多彩さに加え、それぞれの作品への早い仕掛けと情熱をもった宣伝は日本国内における洋画配給会社としての独自性を強く感じさせるも

のであり、それぞれの作品を大ヒットさせた営業努力は、大いなる評価に値するとの意見が大勢を占めた。とくに3D作品「ボルト」「Disney's クリスマス・キャロル」「カールじいさんの空飛ぶ家」を国内において先駆けて確実にヒットさせたと同時に「プリンセスと魔法のキス」ではディズニーアニメの原点ともいえる作品の提供が推薦の大きな理由となった。

#### <特別賞>

##### ○株式会社ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント

「天使と悪魔」「ターミネーター4」「マイケル・ジャクソン THIS IS IT」  
「2012」

数多くの大作、話題作の配給・公開とともに「天使と悪魔」「ターミネーター4」「2012」では、確実に多大な観客動員を果たした年間実績が授賞の大きな背景となった。とりわけ秋に公開された「マイケル・ジャクソン THIS IS IT」は、常識的には考えられないほどの短期間にもかかわらず配給・宣伝を大々的に展開、“マイケル現象”とまで言われる大ヒットとなり、全国の劇場へは観客が殺到して押し寄せた。配給会社として質量ともに映画界を席卷した実績が審査員全員の評価となった。

##### ○20世紀フォックス映画

「ナイトミュージアム2」「アバター」「(500)日のサマー」

何とんでも「アバター」の考えられないほどの超メガヒットが推薦の最大の理由であった。作品の完成が遅れた中での配給宣伝に対するなみなみならぬ努力に対して大きな評価する審査員もあり、封切り後の“社会現象化”状態と圧倒的な観客動員はもとより、昨年から一斉に公開され始めた3D映画をこの作品で日本中に定着させた功績が審査員全員の評価を得た。また「ナイトミュージアム2」「(500)日のサマー」など多彩な作品に対する丁寧な配給活動も推薦の理由となった。

##### ○株式会社ショウゲート

「愛を読むひと」「セントアンナの奇跡」「グッド・バッド・ウィアード」「パリ・オペラ座のすべて」「キャピタリズム マネーは踊る」「Dr・パルナサスの鏡」

ショウゲートの幅広いジャンルにわたる多彩な配給公開作品に審査員の評価が集まった。とりわけ「愛を読むひと」「セントアンナの奇跡」「パリ・オペラ座のすべて」「キャピタリズム マネーは踊る」など話題性と内容豊かな作品の配



給に加えて、量的にも質的にも丁寧で力強い宣伝が目立った。また「グッド・バッド・ウィアード」「Dr・パルナサスの鏡」のようにユニークな作品をヒットさせた実績から今後に対する大きな期待が推薦の理由となった。

<奨励賞>

○株式会社エプコット アルシネテラン・ディヴィジョン

「人生に乾杯!」「湖のほとりで」「副王家の一族」「誰がため」

良質な作品を丁寧な宣伝と公開形態で観客を獲得していく近年のアルシネテランの輸入配給の姿勢が大いに評価された。バラエティに富みながらも背筋の伸びた作品を永年にわたり配給し、特に「誰がため」をはじめ多くの作品においてその宣伝プロモーションをきめ細かく行っているあり方に審査員の称賛が集まった。今後も良質な作品への一層のかかわりを大いに期待することが推薦の理由となった。

○有限会社アップリンク

「雪の下の炎」「未来の食卓」「アンヴィル! 夢を諦めきれない男たち」「ブルー・ゴールド 狙われた水の真実」

地味なドキュメンタリー作品を中心に、多彩な作品を輸入配給している姿勢に審査員の評価が集まった。いずれの作品においても目配りのきいた作品選択が感じられ、映画業界における存在感が推薦の理由となった。

○有限会社ロングライド

「扉をたたく人」「ずっとあなたを愛してる」

近年ヨーロッパ映画を中心に、内容ある極めて良質な作品を落ち着いて丁寧に配給宣伝し、ジワジワと評判を高めていく姿勢に審査員の評価が集まった。また「扉をたたく人」(原題 The Visitor)は、すぐれた日本語題名の作品に与えられる‘09年「筑紫賞: ゴールデンタイトル・アワード」を授賞した。「ずっとあなたを愛してる」も含め両作品とも良質な作品内容が浸透し、息の長い興行となった。審査委員全員の今後へのさらなる期待をこめて、今回の推薦となった。

授賞式は平成22年4月14日に開催され、一般応募者544人、関係者52人、合計596人を招待した。授賞式終了後は、ウォルト・ディズニー・スタジオ・ジャパン提供の「アリス・イン・ワンダーランド」の受賞記念特別試写会が行われた。

3) 国際協力に資する各種映画祭の開催協力

1. 映画祭の後援・協力を行い、各映画祭が成功裡に開催されるよう協力した。
2. 第22回東京国際映画祭運営に協力をし、上映作品のフィルム通関、翻訳、字幕製作に協力した。トーキョーシネマショーは第22回東京国際映画祭提携企画となった。

平成21年度 外配協後援各種映画祭

映 画 祭	会 期	会 場
SKIPシティ 国際Dシネマ映画祭 2009	平成21年 7月10日(金) ～ 7月20日(月)	SKIPシティ 彩の国 ビジュアルプラザ 他
あいち国際女性映画祭 2009	平成21年 8月30日(日) ～ 9月 6日(日)	愛知県女性総合センター 共催市町村のホール 他
第2回 したまちコメディ映画祭 in台東	平成21年 9月22日(火) ～ 9月25日(金)	台東区 浅草地区・上野地区
ブラジル映画祭 2009	平成21年10月 3日(土) ～10月 9日(金)	渋谷シアターTSUTAYA シネ・ヌーヴォ
山形国際 ドキュメンタリー映画祭 2009	平成21年10月 8日(木) ～10月15日(木)	山形市中央公民館 市民会館 市内各映画館 他
第22回 東京国際映画祭	平成21年10月17日(土) ～10月25日(日)	六本木ヒルズ 他
TIFFCOM2009	平成21年10月20日(火) ～10月22日(木)	六本木ヒルズ 森タワー 他
第16回 大阪ヨーロッパ映画祭	平成21年11月19日(木) ～11月23日(月)	ABCホール

大阪アジア映画祭 2010	平成22年 3月 6日(土) ～ 3月14日(日)	ABCホール シネ・ヌーヴォ
フランス映画祭2010	平成22年 3月18日(木) ～ 3月22日(月)	六本木ヒルズ
第2回 沖縄国際映画祭	平成22年 3月20日(土) ～ 3月28日(日)	沖縄コンベンションセン ター 他

4) 輸入外国映画の品質、興行成績及び事故による損傷、滅失等の評価、鑑定又は証明

12月1日「映画の日」ならびに東京都興行生活衛生同業組合（都興連）が主催する毎月1回、年12回（「映画の日」を含める）実施される「映画サービスデー」に協力するとともに、都興連が作成する同日の興行成績対比などの資料を活用し、観客動員の増加に努めると同時に輸入外国映画の品質、興行成績、興行における事故等の最新の情報収集に努めた。

なお、平成21年度において輸入外国映画の事故による損傷、滅失等の評価、鑑定、又は証明の要請はなかった。

5) 輸入外国映画の国際取引に係る紛争解決の斡旋

1. 当協会会員各社は作品契約に際して諸般の事情の許す限り情報交換を行い、日本における輸入配給事業の健全な発展を計るよう努力した。
2. 近年映画館内における映画盗撮行為により無断複製による海賊版DVDの販売やダウンロードされインターネット上にシェアなどのソフトを使って大量に流出するなど著作権侵害が頻発している。これらは外国映画の国際取引に大きな影響を与えるばかりでなく、日本の輸入配給事業の健全な発展を阻むものであり、映画製作を衰退させる大きな問題であることから、社団法人日本映画産業連合会、社団法人日本映画製作者連盟、モーション・ピクチャー・アソシエーション（MPA）全国興行衛生同業組合連合会、社団法人日本映像ソフト協会、日本著作権協会他と緊密な連絡を取り諸対策を検討、活発な活動の結果、平成19年「映画館の盗撮の防止に関する法律」が公布、施行された。さらに今年平成22年1月からは改正著作権法が施行されダウンロードも含め違法という内容となった。映画界団体では映連、外配協、全興連、MPAで構成す

る「映画館に行こう！」実行委員会を中心に本年も以下のような対策と活動を行った。

※全国全劇場（約3300スクリーン）において「盗撮防止キャンペーン」CMを上映作品の冒頭にハードロックすることを継続実施。（平成22年3月より新内容にリニューアル）

※映画盗撮に関する情報提供の場として違法対策室の活動継続および強化。フリーダイヤルおよびHPの周知徹底。

※「映画産業関係者向けガイド／映画盗撮防止法Q&A」並びに支配人・従業員用マニュアルをリニューアルして徹底。

※国内P2Pネット監視体制の強化・整備の継続。

これらの結果、夏以降より違法アップローダー逮捕が相次ぎ、多くの報道がなされた。

## 6) 前各号に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業

### 1. 「映画館に行こう！」実行委員会、キャンペーン事業への参加

年間映画人口を2億人に拡大し、映画産業と日本経済の発展に資する事を目的に、社団法人日本映画製作者連盟、全国興行生活衛生同業組合連合会、社団法人外国映画輸入配給協会、モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)の映画業界4団体が平成16年に発足させた「映画館に行こう！」実行委員会の平成21年度事業に積極的に参加した。

平成21年度のキャンペーンテーマ「映画盗撮防止キャンペーン」については5)の2. に詳細に記載済。

同実行委員会が「映画大使」を委嘱してきた故・筑紫哲也氏の発案で、実行委員会が創設した「筑紫賞：ゴールドタイトル・アワード」の5度目の受賞式が「GTFトーキョーシネマショー2009」の中で行われた。

### 2. 上映時間データベース他デジタル化への参加

「映画館に行こう！」実行委員会では、映画観客が見たい作品を見逃す理由として、見たい時に上映時間が不明であるという調査結果から、全国劇場や既存情報会社の協力のもとで全国映画館の上映作品及びその上映時間を集約したデータベースの立ち上げを決定、実行準備を開始した。

この結果12月には、そのデータベースの稼働を開始し、第1弾として朝日新聞での掲載が始まった。今後さまざまなマスメディアを通じての利用促進を図っていく。

さらに3D上映作品の成功もあって映画界では急速にデジタル上映システム

の導入が研究、討議されている。これらに対し、当協会では理事会においての関係各社のプレゼン、シンポジウムを開催したほか映連、MPA、全興連とも連携して研究会に参加した。

### 3. 年頭名刺交換会の開催

モーション・ピクチャー・アソシエーション（MPA）の協力を得て、日本の映画産業を支える配給、興行、宣伝、製作、メディア関係者713名が参加し、年頭にあたり外国映画輸入配給事業の健全な発達を図り我が国経済の発展と文化の向上に寄与することを目的として平成22年は、平成21年に引き続き1月5日（火）に「年頭名刺交換会」を開催した。

### 4. 各種映画賞運営に協力

第33回「日本アカデミー賞」（運営委員として）、第64回「毎日映画コンクール」の運営（諮問委員として）に協力した。東京映画記者会主催の第52回「ブルーリボン賞」に後援者として協力した。

### 5. (社)映画産業団体連合会会員としての活動

社団法人映画産業団体連合会（映団連）の正会員として、当協会会長は理事として定時総会、定例理事会（9回）に出席し、事務局長はオブザーバーとして同席。映団連会員団体事務局長連絡会議に出席、映団連の会員として当協会の基盤の安定に努力した。映団連主催の第54回「映画の日」運営に協力した。

第54回「映画の日」永年勤続功労章受賞者（当協会推薦者）は以下の通り。

氏名	会社名	役職名
河野 均	(財)川喜多記念映画文化財団	経理担当
竹内 康治	東宝東和株式会社	営業部
阿部 耕二	株式会社東京テレビセンター	制作技術部 部長職

### 6. 外画宣伝部長会

当協会会員会社とモーション・ピクチャー・アソシエーション（MPA）加盟会社、映連加盟会社他、合計30社の宣伝部長で構成される宣伝部長会（9回）を開き、直面する諸問題の検討、情報の交換等を行い、各社の宣伝業務が円滑、健全に遂行され、各社の輸入配給事業の活動が妨げられず、映画観客の増大に繋がる宣伝を各社が行える環境整備に努力をした。社団法人映画製作者連盟と協力して、2010年映画ジャーナリスト・宣伝部合同年賀の会を1月12

日（火）に開催し、映画関係ジャーナリストとの交流を深めたほかデジタル予告編の現状やEU映画祭のプレゼンなどを行った。

7. 平成22年（2012年）に迎える創立50周年の記念事業に関して、政策委員会の要請を受けて、3月「外配協創立50周年記念事業」実行委員会（実行委員長：松岡副会長）を結成、各部会より自薦、推薦で選ばれた実行委員10名が参加して第1回会合が始まった。（隔月実施予定）今後50年史（仮称）の発刊や事業内容について審議立案していく。

以上